

一般社団法人日本コンクリート診断士会
第7回定時社員総会後の討論会議事録

1. 日時：平成28年5月24日（火） 14:40～17:10
2. 場所：公益社団法人 日本コンクリート工学会 11階会議室
3. 資料：一般社団法人日本コンクリート診断士会第7回定時社員総会資料
 - (1) 第Ⅰ部 各地区コンクリート診断士会の活動報告
 - (2) 第Ⅱ部 ～コンクリート診断士会のこれからを考える～

4. 出席者数

学術・正会員出席者数：当日出席78名

賛助会員出席者数： 2名

法人会員出席者数： 11名(9社)

メディア関係： 3名(セメント新聞, コンクリート新聞社)

5. 討論会：コンクリート診断士会のこれからを考える

5.1.1 第1部 各地区コンクリート診断士会の活動報告

第1部として、鳥取県、島根県、東京、石川県、青森県、静岡、京滋、高知県、新潟県、長野県、東海、宮崎県、福岡県、富山県、宮城県の各コンクリート診断士会より「コンクリート診断士会のこれからを考える討論会」資料を基に約4分で報告があった。主なものは以下の通りである。

(1)鳥取県コンクリート診断士会

- ・正会員は、現在47名となった。
- ・昨年9月11日に山陰両県の設立10周年記念大会を開催した。
- ・16年度は、「皆で何かをしよう」をテーマに活動予定である。

(2)島根県コンクリート診断士会

- ・正会員は、現在80名である。
- ・島根県土木部と「公共土木施設コンクリート構造物の点検・診断等に関する協定書」の調印を16年3月に行った。
- ・16年度は、「点検・診断アドバイザー」の派遣を行う予定である。（詳細は資料を参照）

(3)東京コンクリート診断士会

- ・昨年11月11日に設立10周年記念行事を行った。
- ・16年度は、特に「TCD成長の基本コンセプト」をもとに技術セミナー、技術フォーラムなどを通じて「広げる」「つなげる」「高める」をコンセプトに活動予定である。

(4)石川県コンクリート診断士会（ICD）

- ・ICDは、個人の集まりによる民間組織で、産官学民の連携体制の橋渡しを行っている。
- ・本会の特徴であるICD活動レポートを年6回程度発行している。

(5)青森県コンクリート診断士会

- ・当会には、秋田、岩手県には診断士会がないので両県のコンクリート診断士も参加している。
- ・16年度には、設立10周年記念を計画している。

(6)静岡コンクリート診断士会

- ・16年度には、設立10周年を迎えることになる。
 - ・当会で発行している「診断士のPR」ワッペンは好評を得ている。
- (7)京滋コンクリート診断士会
- ・研修会、現地見学会などを実施している。
- (8)高知県コンクリート診断士会
- ・昨年9月25日に「コンクリートサミットin高知」を開催した。
 - ・16年度のコンクリート診断士受験講座は、記述式問題に特化して実施予定である。
- (9)新潟県コンクリート診断士会
- ・昨年度は、講演会などで「本音を語る」機会を設けた。
 - ・16年度も昨年同様に現場研修会、技術セミナーなどの活動を実施予定である。
- (10)長野県コンクリート診断士会
- ・昨年は、1回目のコンクリート診断士受験講座を開催した。
 - ・16年度も、研修会、現場見学会などを実施予定である。
- (11)東海コンクリート診断士会
- ・昨年度は、研修会、受験対策講座、業務体験発表会などを実施した。
 - ・16年度はMAGCD、MEの会との合同での研修会の開催などを実施予定である。
 - ・先ほどの理事会で「17年度のJCDの業務体験発表会」の東海地区での開催が決定した。
- (12)宮崎県コンクリート診断士会
- ・昨年度は、コンクリート診断士受験講座、補修材料勉強会、業務体験発表会などを実施した。
 - ・今年度も同様の活動を計画している。
- (13)福岡県コンクリート診断士会
- ・昨年度は、設立記念講演会、コンクリート診断士受験講座等を実施した。
 - ・16年度は、コンクリート構造物の施工および補修・補強に関する研修会などを実施予定である。
- (14)富山県コンクリート診断士会
- ・16年度からJCDに入会した。
 - ・昨年度は、技術セミナー、現場見学会などを実施した。
 - ・16年度は、現場見学会などを実施予定である。
- (15)宮城県コンクリート診断士会
- ・16年度からJCDに入会した。
 - ・昨年度は、技術講習会、EE東北'15などを実施した。
 - ・16年度は、技術講習会などを実施予定で、JCD他との連携を進めていく。

5.1.2 第2部 ～コンクリート診断士会のこれからを考える～

林会長にコーディネーターをお願いした後、林会長の挨拶があり、パネラーの大分県、北海道、広島県および福井県の各地区の会から約7分で討論会資料を基に下記の報告があった。その後、討論がなされた。

(1) 林会長よりこれから話題提供される4県について以下の発言があった。

- ・活発に活動されている。
- ・地元自治体との協力関係が進んでいる。
- ・市民との交流がなされている。

(2) 話題提供（地区診断士会）

①大分県

- ・年会費は10,000円としている。
- ・診断士会とセメント協会で協力して県のセンターで研修を行っている。
- ・地区の業務発表会での論文をJCIへ投稿した。
- ・技術講演会では会費を徴収している。

②北海道

- ・診断士試験の受験講習会を開催している。講師を前年度合格した人をお願いしている。
- ・各地区の建設業協会から講演依頼がある。
- ・共同活動としてJCIの共同研究に参加している。
- ・活動は4月から11月である。
- ・北海道は広域なので活動に苦労している。

③広島県

- ・サロンを2ヶ月に1回開催して、技術の紹介をしている。
- ・コンクリート探偵会を開催しているが、セメントコンクリートに掲載され注目されている。
- ・平和の塔の長寿命化をめざしてボランティアで調査を行った。コンクリートは100年持つ構造物であり、マスコミも来て注目された。一般の人に診断士を知らしめたいと考えている。

④福井県

- ・自治体関係者の入会が多い。
- ・そのため、自治体と連携した活動や農林関係との活動もある。
- ・インフラメンテナンス国民会議へ参画した。
- ・地域の維持管理は地域でという地産地消をめざしている。
- ・診断士の地域ブランド化を図りたい。
- ・自治体の課題は、財源不足、技術不足、絶対数の不足である。
- ・福井県内の発注物件では診断士会の会員であることが資格要件になったケースもある。

(3) 討論

Q1：福井県診断士会会員であることが発注者の資格要件になっていることについて

- ・この事例は、ある市の案件での例で、福井県コンクリート診断士会の正会員であることを求めている。
- ・診断士会入会に何かの基準があるのか。最低限のレベルは何か決めているのか。
⇒現状ではない。課題は技術力のばらつき、会としての技術力のレベルの設定である。
- ・構造診断士との関係はどうか。

⇒構造診断士の活動がわからないので回答できない。

Q2：会員を増やしていくにはどうすればよいのか。

- ・研修会等の活動で関心をあげていくことが会員を増やしていくことにつながる。活動していることを周知するとともに、活動が世の中に役立っていることを示すことが必要である。

Q3：NPO法人としての立上げについて

- ・企業色を出さない方が役所(県)として利用しやすいだろうと考えていた。最初は利用されていたが現在の利用頻度は少ない。
- ・実際に入会しているのは診断士だけであるが、NPO法人は誰でも入れる。資格不要である。

Q4：自治体への入会の働きかけはあったのか。

- ・特にはない。ただし、活動の広報は努力している。勉強していることを強調している。

Q5：島根県の協定について

- ・地元根付いた活動の成果と思っている。
- ・不具合があると電話があり、講習会、研修会が開催され講師派遣を行った。

Y1:要望

- ・国交省の行っているロボット化、モニタリングなどの維持管理に関する勉強会を開催してほしい。調べるための手段として情報を広げていくことが必要である。
- ・ロボット化などは手段の話で、最後はコンクリート診断士の判断に行き着く。
⇒上記の情報が欲しいということである。

Q6：福岡県の法人化について

- ・他の地区も一般社団法人だと思って法人化した。
- ・法人化すると業務が受けられる。ただし、責任をだれが取るか難しいところがある。
- ・自治体と協定を結ぶときに問題となるかもしれない。ただし、島根県は問題とならなかった。
- ・TCDでは、10周年事業で、任意団体からの申し入れは受けられないということがあった。このように社会から見る目は任意団体と社団法人では違う。

Q7：福井県のパワーポイントについて

- ・「地元自治体との密接な連携・協調」のパワーポイントで、矢印が診断士会から外にしか向いていない。診断士会に向かう矢印があってもよいのではないか。会員・会員企業に利益が出るようにすれば内向きの矢印もでるのか。

⇒診断士会の活動の目的は、第一に、「コンクリート診断士の価値を高めること」である。

コンクリート診断士の価値を高めることで、会員・会員企業に利益が自ずともたらされると考えている。

- ・診断士会の組織に入っていると診断士の活動ができるようになるのが理想だと以前小野副会長が発言していた。
- ・診断士会に入会することのメリットが必要である。団体としての（コンクリート診断士の）地位向上が大きなメリットで、個人の直接的なメリットは難しい。
- ・現在、点検・診断業務で診断士の認定証のコピーの提出を求められるようになっている。
- ・広島は任意団体であり、診断士そのものの技術力を上げることが目標で、業務はそれぞれの会社と考えている。
- ・資格を作ったJCIがもう少し診断士の認知度を上げるべく努力してほしい。
- ・法人格を持てば、受託でき間接的に調査等に参加できる、というメリットもある。

- ・ 第三者機関としての位置付けもあるべきだ。

Q8：技術者の高齢化について

- ・ 技術者が高齢化し、若手の技術力不足などがある。診断士会としてこれらの対策を検討して欲しい。
- ・ 建築の場合、一級建築士が対応し、コンクリート診断士が支援するというスタイルで、両者のコラボが必要となる。しかし、建築では診断士の認知度が低い。
- ・ これに対して土木では受注者の責任で仕事をしているのではないか。

(4) まとめ

- ・ 診断士の自治体への協力が増えている。
- ・ 診断士の認知度がもっと上がっていくとよい。



討論会状況1



討論会状況2



林会長のあいさつ



パネラーによる討議状況



司会者（原田理事）による説明状況



田沢氏の説明状況



石川理事による説明状況



佐藤副会長による説明状況



田畑理事による説明状況

米倉理事による説明状況

文責：篠川・木村（事務局）